

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号  
実用新案登録第3086612号  
(U3086612)

(45)発行日 平成14年6月28日(2002.6.28)

(24)登録日 平成14年4月3日(2002.4.3)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>  
H 0 1 R 12/18

識別記号

F I  
H 0 1 R 23/68

3 0 1 J

評価書の請求 未請求 請求項の数3 書面 (全 5 頁)

(21)出願番号 実願2001-8128(U2001-8128)

(22)出願日 平成13年11月9日(2001.11.9)

(73)実用新案権者 500080548

鴻海精密工業股▲ふん▼有限公司

台湾台北縣土城市自由街2號

(72)考案者 郭 明倫

台北県中和市橋和路160町18号6階

(74)代理人 301032713

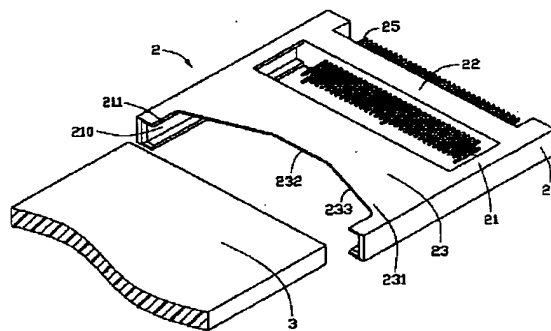
フォックスコン・ジャパン株式会社

(54)【考案の名称】 電子カードコネクタ

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 一種の電子カードコネクタ装置の提供

【解決手段】 少なくとも絶縁本体20と、この絶縁本体の中に置いた複数の導電端子25と、を有し、該絶縁本体は、両サイドアーム21と、その両サイドアームの端部に設置された接続アーム22と、を含み、前記導電端子が該接続アームに設置される。前記両サイドアームはこの両サイドアームの内部へ引込み現象を防止する一体形成された補強板23を有し、前記サイドアーム上に電子カード3をガイドするためのガイドグループ210を設置し、前記補強板の挿入した方向と隣接する両側が突出し、フランジ231になる。



1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 突合せ電子カードを収納するための電子カードコネクタであって、

絶縁本体と、該絶縁本体内に設置される複数の導電端子とを含み、

前記絶縁本体は両サイドアームと、これらの両サイドアームの端部に設置された接続アームを備え、サイドアームに前記絶縁本体と一体に形成された補強板を設置するとともに、ガイドグループを備えており、前記補強板は前記接続アームと所定距離を隔てて設置し、且つ前記サイドアームとの接続部に前方向へ突出したフランジを備えることを特徴とする電子カードコネクタ。

【請求項2】 前記補強板の中間部に凹部を形成し、該凹部と前記フランジとの間に斜面を形成することを特徴とする請求項1記載の電子カードコネクタ。

【請求項3】 前記ガイドグループの上部に上ガイドプレートとを有し、該上ガイドプレートは補強板より厚く形成されたことを特徴とする請求項1記載の電子カードコネクタ。

## 【図面の簡単な説明】

\*20

2

\*【図1】従来の電子カードコネクタの立体図。

【図2】従来の電子カードコネクタの補強板が変形した時正面図。

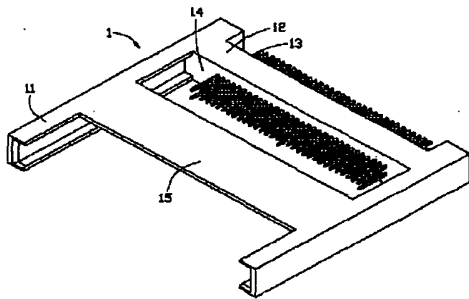
【図3】本考案の電子カードコネクタの立体図。

【図4】本考案の電子カードコネクタに電子カードを挿入した時の立体図。

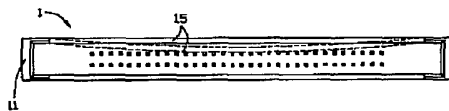
## 【符号の説明】

2	電子カードコネクタ
20	絶縁本体
21	両サイドアーム
210	ガイドグループ
211	ガイドプレート
22	接続アーム
23	補強板
231	フランジ
232	凹部
233	斜面
25	導電端子
3	電子カード

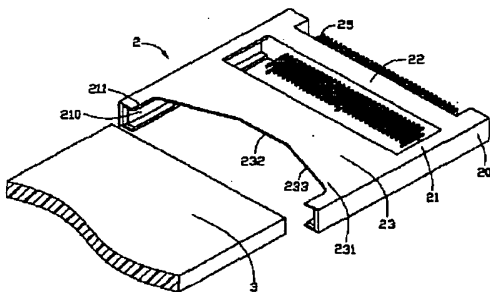
【図1】



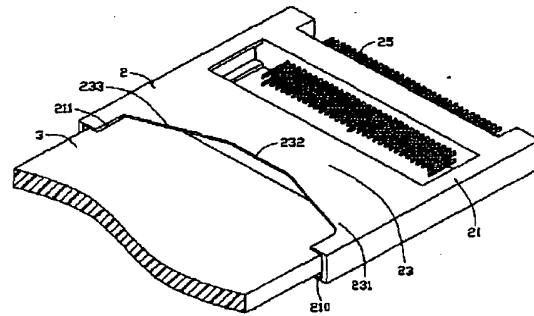
【図2】



【図3】



【図4】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、一種の電子カードコネクタに関し、特に、補強板を備えた電子カードコネクタに関する。

**【0002】****【従来の技術】**

通常、電子カードコネクタは、電子カードの挿入をガイドするためのサイドアームを有し、このサイドアームはプラスチックからなるもので、外部の温度に大きく影響されやすいので、サイドアームが常に内部へ引込み現象を生じていたため、電子カードでの挿入を妨げることになる。そのため、前記サイドアームの引き込みを防ぐためには、前記両サイドアームの間に位置し横応力を耐え得る補強板を設ける必要がある。

**【0003】**

これに関する技術は、図1に示すように、電子カードコネクタ1は両サイドアーム11を備え、これらの両サイドアーム11が横方向アーム12により接続され、さらに複数の導電端子13が該横方向アームに設置され、その一端は横方向アーム12の突合せ面14に延出して、他端ではサーキットボード（図示せず）に溶接されている。補強板15は前記横方向アーム12と一体に形成され所定距離を隔てて設置されるので、前記補強板15により、サイドアーム11が引込み現象を生じ難くなるものである。

**【0004】****【考案が解決しようとする課題】**

しかし、従来、電子カードコネクタを製造し溶接するプロセスにおいて常に受熱しているため、補強板15は図2の点線に示された変形が生ずる。電子カードを挿入するに際して、補強板15における、その中間部の変形量が大きい部分は電子カード（図示せず）の挿入を妨げやすくなるため、電子カードの挿入は極めて困難である。

**【0005】**

本考案は、補強板を備えた電子カードコネクタを提供する目的とし、該補強板は電子カードコネクタの絶縁本体と一体に形成され突合せ電子カードの挿入を妨げないものとする。

#### 【0006】

##### 【課題を解決するための手段】

前記の目的を鑑みにして、本考案の電子カードコネクタは、絶縁本体と導電端子を有し、この絶縁本体は両サイドアームとこれら両サイドアームの端部に位置された接続アームを備え、前記複数の導電端子は該接続アームに設置する。補強板は両サイドアーム上に前記接続アームと所定の距離で設置され、両サイドアームに近接した部位にフランジを形成し、かつ両フランジから中間部の凹部に突出して、前記フランジと凹部との間に斜面を形成する。電子カードを挿入する際に、まずフランジに接触して、斜面を突き上げ、さらに中間部の凹部を突き上げて、電子カードを挿入することは妨げない。

#### 【0007】

##### 【実施例】

次に、本考案の実施例について、図面を参照しながら、本考案の実施例となる電子カードコネクタについて詳しく説明する。

#### 【0008】

図3に示すように、本考案の電子カードコネクタ2は、絶縁本体20および導電端子25を備え、前記絶縁本体20は両サイドアーム21とこれら両サイドアーム21の端部に設置された接続アーム22を含み、前記の導電端子25が該接続アーム22に設置される。前記両サイドアーム21には、前記両サイドアーム21が引き込まれた時に生じた横応力を耐え得る補強板23を備え、かつ該補強板23は前記接続アーム22と所定の距離を隔てて設置する。前記補強板23と前記接続アーム22との接続部にはフランジ231を有し、該フランジ231が前方向へ突出して中間部に凹部232を形成し、かつこの凹部232と前記フランジ231との間に斜面233を形成する。前記サイドアーム21上に電子カード3の挿入をガイドするためのガイドグループ210が形成される。前記ガイドグループ210に上ガイドプレート211を有し、該上ガイドプレート211は

補強板23より厚く形成する。

【0009】

図4に示すように、電子カードコネクタ2が熱を受けた時、補強板23は部分的に変形が生じ、前記両フランジ231の変形量は小さく、中間部の凹部232の変形量が大きく生じているため、電子カード3を挿入するに際して、まず前記ガイドグループ210のガイドにより前記フランジ231に挿入し、補強板23は上ガイドプレート211より薄く形成されたため、前記電子カード3は抵抗なく前記フランジ231へ挿入される。次に、前記電子カード3と前記斜面233との接触により斜面233が突き上げられるとともに、中間部の凹部232も突き上げられ、電子カード3が前記導電端子25に挿入されやすくなる。

【0010】

前記を総じて、本考案は実用新案登録の要件を十分に備えているため、法により実用新案登録べきである。また、前記した実施例は本考案の請求範囲を限定するものではなく、本考案に基づきなしうる細部の修飾或いは更など、いずれも本考案の請求範囲に属するものとする。